

社会医療法人仁愛会浦添総合病院施設整備基本構想

平成 30 年 4 月 1 日
社会医療法人 仁愛会

《目次》

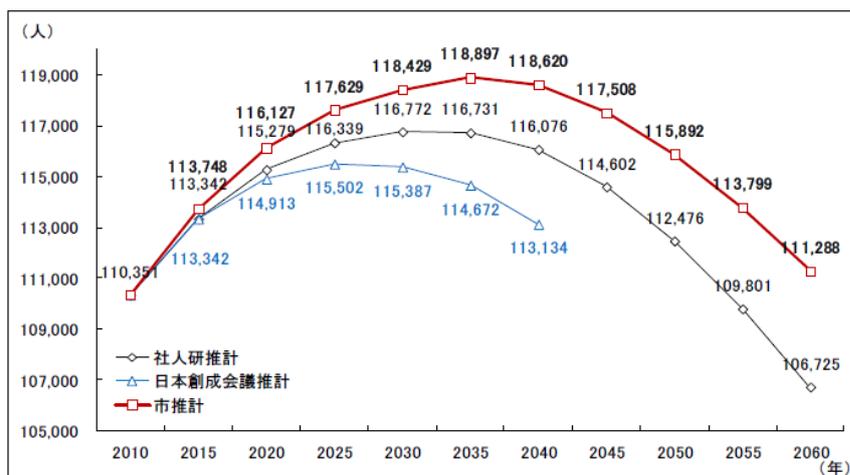
第1章 当院を取り巻く環境と現状	3
1. 人口動態と医療を取り巻く環境	3
2. 浦添市及び近隣市町村の医療提供体制	4
第2章 新病院整備にあたっての基本的な考え方	4
1. 整備理念・基本方針	4
2. 基本戦略	5

第1章 当院を取り巻く環境と現状

1. 人口動態と医療を取り巻く環境

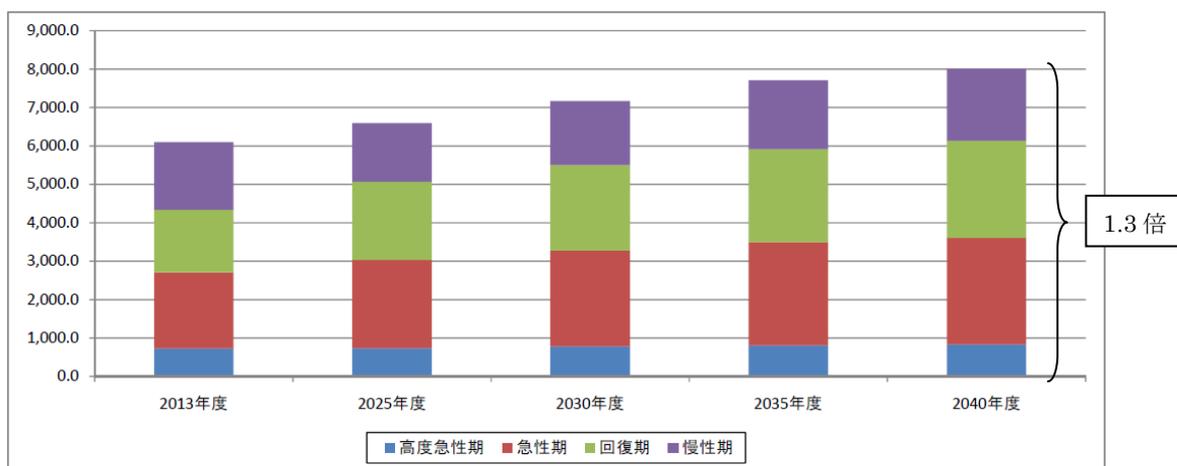
沖縄県の総人口は2015年国勢調査（総務省統計局）によると、143万3,566人となっており、2020年まで増加を続け、その後は緩やかな減少傾向で推移する見込みとなっています。全国的には2015年国勢調査から人口が減少に転じているなかで、沖縄県は増加する数少ない都道府県のひとつです。

当院が位置する浦添市の人口は114,199人（2017年10月末時点）であり、浦添市人口ビジョン（2016年2月）によると、2035年以降も堅調に増加を続け、2035年に約118,900人に到達し、その後、減少に転じる見通しにあります。



出典:「浦添市人口ビジョン(2016年2月)」浦添市企画部企画課

沖縄県地域医療構想（2017年3月）によれば、当院が位置する南部医療圏における医療需要については、沖縄県の人口増加及び高齢化率の上昇等に伴い、2040年度には2013年度と比較し約1.3倍になると予測されています。



出典:「沖縄県地域医療構想(2017年3月)」沖縄県

2. 浦添市及び近隣市町村の医療提供体制

浦添市内の医療機関の配置状況をみると、精神科や単科病院を含めると8施設ありますが、隣接する宜野湾市については精神科を含めて4施設しかありません。宜野湾市人口98,131人（平成29年10月末）の医療需要の全てを満たすことはできないことから、圏域をまたいで南部医療圏内にある浦添市内の医療機関を受診する患者が多いことも現状です。

市町村	医療機関名	病床数	一般	療養	精神	結核	感染
浦添市	浦添総合病院	334	334				
	同仁病院	154	100	54			
	沖縄療育園	100	100				
	嶺井第一病院	103	53	50			
	牧港中央病院	99	53	46			
	比嘉眼科病院	50	50				
	嶺井リハビリ病院	168		168			
平安病院	393		84	309			
宜野湾市	沖縄病院	320	270			50	
	海邦病院	140	95	45			
	宜野湾記念病院	135	66	69			
	玉木病院	211			211		

出典:「届出受理医療機関名簿」九州厚生局より作成。

地域の皆様に必要な医療を提供していく上では、ひとつの病院だけではなく地域全体で医療を支え、担うべき役割とともに機能分担と連携の推進が必要となります。

第2章 新病院整備にあたっての基本的な考え方

1. 整備理念・基本方針

新病院の整備理念・基本方針

■ 整備理念

「医療・介護・福祉で人と地域を支える」

～生涯安心して暮らせる地域造りに貢献します～

■ 基本方針

- ① 地域医療支援病院として救急・急性期医療を更に充実しつつ、地域医療に貢献します。
- ② 地域災害拠点病院としての機能強化を図ります。
- ③ 地域包括ケアシステムを充実させるために急性期病院として、健診事業とのより密な連携、および回復期リハビリテーション病床や地域包括ケア病床との連携、介護・福祉との連携、在宅医療の支援へ貢献します。
- ④ 卒後医師臨床研修、専門医研修、高度先進医療技術の習得のための教育機能を充実させること、また、看護師や他の医療技術職においても常にアップデートしながら教育を受けることのできる機会を創生すべく、人材育成に力を入れます。
- ⑤ 法人全体を維持、継続できる安定した経営基盤を確立します。

当法人の理念である「地域住民のニーズを満たす医療」を掲げて40年程にわたり、地域の中核病院として救急医療を始めとする急性期医療や高度医療の提供に努めてきました。しかしながら昭和56年の開院から37年程が経過し、施設・設備の劣化が進むとともに、医療の高度化や医療環境の変化に対応するために行ってきた医療機器の導入や度重なる改修などの結果、特に施設の狭隘化が著しい状況となっています。また、「超高齢社会」の中で社会保障制度のシステムの変更により、医療も急性期だけではなく地域包括ケアシステムを念頭において、回復期リハビリテーション病床や地域包括ケア病床との連携、さらに介護・福祉との連携促進、在宅医療の充実などが社会のニーズとなっています。当法人はそれらの地域のニーズを満たすべく「地域医療連携推進法人」の活用なども含め、これまで以上に連携を強化しつつ上記の基本方針の達成に向けて努力します。

2. 基本戦略

浦添総合病院は沖縄県南部医療圏及び中部医療圏の圏境に位置しておりますが、公益性の高い医療を担う社会医療法人として、地域住民にとって安心・安全な医療を実現するとともに、診療密度や質が高く効率的な成人急性期医療を今後の時勢と地域のニーズに応じて提供していきます。

また、喫緊の課題である超高齢化や少子化を見据え、当院での急性期ケア終了後も、日常生活や療養生活を充実して継続していただくために、複数の市町村から患者を受け入れる急性期医療提供施設の立場から、安心して信頼のおける地域包括ケアシステムが構築できるように最善を尽くし、職員一丸となり以下の事項を目指すものとします。

【基本戦略の項目】

- (1) 救急医療の推進
- (2) 地域完結型医療の推進
- (3) 高度専門診療体制の構築
- (4) 地域災害拠点病院としての役割強化
- (5) 職員が安全で働きやすい職場環境の構築
- (6) 医療密度向上と安定的経営基盤の確立
- (7) 医療・介護・福祉の従事者の人材育成を推進（臨床研修機能も含む）

(1) 救急医療の推進

『救命救急センターとしての機能と装備を更に拡充し、ドクターヘリやドクターカー事業を始めとするプレホスピタルケア、一次からより高次までの救急患者に対するER診療、入院後の重症者の診療に対し、地域の中核としての役割を担います。』

当院は現在、地域救命救急センターの指定を受けていますが、新病院移転後には一般の救命救急センターとして機能を拡充たいと考えます。現状ではドクターヘリの格納庫及び離発着用のヘリポ

ートが病院と離れており、新築移転に伴って病院に併設する予定です。また、2018 年度には高規格救急車を配備し、それによる患者搬送業務を実施する予定です。

今後の高齢化率やドクターヘリ、ドクターカーの充実を考慮すると、救急搬送患者の更なる増加や搬送後の入院患者の増加が予想されることから、これらの救急医療需要に十分に対応できる救急医療診療体制の構築が重要である為、救命救急センターの機能拡充を図ります。

(2) 地域完結型医療の推進

①『超急性期から急性期の循環器疾患および脳卒中の専門的診療を包括的に提供する体制を強化し整えます。また、当該疾患の回復へ向けてのポストアキュートケアやその後の慢性期・維持期へと継続した包括的ケアを実現するために、周囲の医療・介護・福祉サービスの提供者やその職域の関連サービス提供者と協調・協働します。』

②『今後の時勢のなかで増加することが予測される高齢者の骨折などの外傷整形外科診療体制をさらに充実させるとともに、急性期ケア後の回復や社会復帰、日常生活支援のために、周囲の医療・介護・福祉サービスの提供者やその職域の関連サービス提供者と協調・協働します。』

救命救急センターの機能拡充と共に、超急性期の循環器診療体制や脳卒中診療体制、外傷整形外科診療体制の強化を図ります。あわせて、急性期治療終了後の転院等の調整期間が長期になっている現状も踏まえ、回復期機能病床を有する病院との連携構築や介護・福祉も含めた在宅復帰支援体制の構築等の充実した地域包括ケアシステムの構築を目指すとともに、地域連携を重視し、「かかりつけ医」との病診連携や他の医療機関、在宅、介護施設、他関連サービス提供者との連携を基本とする病診・病病連携等による機能分担を図り、地域医療ネットワークを構築します。また、行政や地域の自治会、地区医師会とも密に連携し、地域完結型医療の推進を図ります。

(3) 高度専門診療体制の構築

①『5 大がんや発生頻度の高いがんについて、診断・治療・在宅療養・終末期医療に至るあらゆる段階において地域住民が安心してサービスを受けられるがん診療体制を構築します。また、がんゲノム拠点病院等とも連携し、最新かつ高度ながん診療を提供します。』

日本の 3 大死因(平成 24 年人口 10 万対)は悪性新生物(28.7%)、心疾患(15.8%)、肺炎(9.9%)であり、悪性新生物はその中で常に 1 位で増加傾向にあります。

浦添総合病院は今後も地域のニーズに応え続けるために、がん診療の充実は非常に重要と考えており、当院が担うべき悪性疾患については予防から検診・診断・治療・終末期医療まで地域で包括的な診療体制を構築していきます。また、がんゲノム拠点病院等と連携し最新かつ高度ながん診療を提供します。

終末期医療については、Advance Care Planning を取り入れ、患者やその家族と向き合いながら、地域と連携を図り、緩和ケア診療体制（在宅訪問診療看護、緩和ケア病棟、居宅緩和ケア）を充実します。

がんの診断がついた時点から終末期に至るまでのあらゆる段階において、当院の職員が多職種チーム医療体制で常に患者に寄り添い、また当院の信頼するあらゆる医療機関や介護・福祉・保険などのサービス提供者の方々と密に連携し、患者が地域で安心して生活しながら治療を受けられるがん診療体制を構築し提供します。

②『その他の慢性に経過し増悪と改善を繰り返しながら生命に関わってゆく疾患に対して、より専門的で高度な医療を提供する役割を担います。』

増悪と回復を繰り返しながら予後が徐々に悪化する種々の慢性疾患についても、診断がついた時点から当院の職員が寄り添いながら終末期を迎えるまでの長いスパンで疾患のコントロールをわかりつけ医や療養をサポートする看護師やその他の職種と共に行う体制を構築します。増悪と回復を繰り返し終末期に向かうであろう疾患やその合併症に向き合ってもらえるよう十分な支援できる体制を、当院の信頼するあらゆる医療機関や介護・福祉・保険などのサービス提供者の方々と深く連携しながら構築します。

③『あらゆる研究機関や企業と協働・協調し、最先端の医学研究成果を日常臨床診療に取り入れることができるよう努めます。』

iPS 細胞の普及により再生医療領域には大きな期待がもたれ、また遺伝子の解析技術の進歩によりゲノム医療領域は目覚ましいスピード感ですばらしい研究成果が発表されています。

また、沖縄県内には沖縄科学技術大学院大学（OIST）や、琉球大学医学部再生医療センターが設立され最先端の研究が行われており、その他、国内外を問わず実臨床応用可能な有望な最先端研究成果を挙げている民間機関があります。それらと協働・協調し、研究成果を安全に臨床応用ができる機能を備えます。

（4）地域災害拠点病院としての役割強化

『地域災害拠点病院として、広域の避難所としての機能を担う体制を整えます。また、感染症診療に対しては、第二種感染症指定医療機関を目指します。』

地震などの大災害時には地域災害拠点病院として、Medical Continuity Plan を駆使し、広域の避難所の機能を発揮するとともに、適切な医療供給体制を整える能力を備えることが必要です。また、今後流行の示唆される新種の重症ウイルス感染症にも対応可能な機能や設備を整備します。

(5) 職員が安全で働きやすい職場環境の構築

『患者へ良質な医療を提供するために、職員の労働衛生上の課題を軽減できるよう、また今後予測される職員の高齢化も視野に入れ、職場環境の構築を図ります。』

(6) 医療密度向上と安定的経営基盤の確立

『病院経営を取り巻く厳しい環境の変化に的確に対応し、安定的に医業収益を確保していくため、地域の医療機能の役割分担や連携を進め、業務遂行の効率化を図るとともに、各職員が担当業務に集中して取り組める体制を確立します。』

(7) 医療・介護・福祉の従事者の人材育成を推進

『あらゆる職域において専門性の高さを維持するために、医育機関として人材育成への努力を続け、更に発展させます。』

卒後医師臨床研修・専門医研修・高度先進医療技術の習得のための教育機能を充実させ、看護師や他の医療技術職においても、常にアップデートしながら教育を受けることのできる機会を創生します。

以上